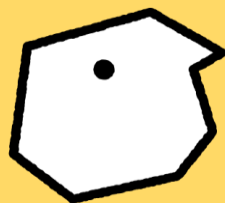


2024年3月24日

たねとしく活動報告会@オンライン

2023年度 活動報告会



たねとしく

こどもサポートステーション

NPO法人こどもサポートステーション・たねとしく

ビジョン ミッション

すべてのこども達が尊厳を守られ、 のびやかに育ち、自分の人生を選べる社会の実現

こども達が生まれ育った環境に左右されずに、安心して暮らせ、こどもらしい成長を遂げ、自分が望む人生を選べる社会、すべての人が生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざします。

仲間の出会い

- 2015年 代表大和陽子と李恭子が西宮市内の団体にて子育て支援の活動を開始。
- 2019年 上記団体にてひとり親支援を開始。
現在の運営スタッフである金田・遠藤・西嶋に会う。
- ひとり親家庭や困窮家庭のこども達の抱える課題に特化した団体の必要性を感じ、「たねとしく」の設立を決意。

団体設立

- 2022年7月任意団体として活動開始
- 2023年1月NPO法人化
- 2023年8月「たねとしくライブラリー」開始



たねとせずく主な3つの事業

- ・ 10代の若者を中心にしたこどもユースセンター事業

居場所支援
ライブラリー

たねとせずく主な3つの事業

支援者支援
支援者を増やしケアする

地域支援する人を
増やすための支援者支援

訪問支援
困窮家庭の生活支援

- ・ ひとり親/困窮世帯の訪問型生活支援
(こども支援・家事支援)
- ・ 絵本の読み聞かせ訪問

●ひとり親家庭/困窮家庭のこどもの支援

訪問型生活支援



食料提供



こども交流会



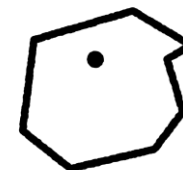
●居場所支援

ライブラリー



●支援者の支援

研修



たねとしずく
こどもサポートステーション

当団体の特徴

訪問&居場所のハイブリットによる支援

行く
(訪問型生活支援)

家族丸ごと支援



待つ
(居場所支援)

こども支援



運営スタッフと学生スタッフの協働

多様な経験を持つ運営スタッフとこども達とナナメの関係を構築できる学生や20代のスタッフとチームでこども達を支えています。

こどもの権利を軸にした活動

こども達を権利の主体としてとらえ、スタッフはこども達の人権を守り活動を行っています。こどもの声を聴くこと、こどもの安全を守ることを全スタッフと共有しながら活動を進めています。

居場所事業

(主に10代のこども対象)

事業背景

こども達の日中の居場所不足

西宮市の不登校児童の割合が全国的にも高く、市内5.37%(全国4.09%)。当団体が関わったひとり親家庭には不登校児童の割合が高い。またフリースクールは高額で困窮家庭のこどもは利用しにくい状況です。

ケアが必要なこども達の居場所不足

障がいのある子や社会的養護が必要なこども達が大人からケアを受け、同年代の多様なこどもと関われる場がほとんどない。家に閉じこもっていることが多く、孤立をしている状況があります。

困窮世帯の体験や学習機会の不足

困窮世帯や保護者が何らかの理由でこどもを十分に養育できない家庭ではこども達が同年代のこども達に比べて体験や学習機会が足りず、学校での話題や学びについていけずの孤立しやすい状況です。

10代への支援不足

西宮市の20歳未満の自殺者割合が6.8%と兵庫県3.3%、全国3.4%の倍の割合のぼるが、10代以降の支援に関してはほとんどなく、特に高校生を対象としたものはほとんどありません。

目的

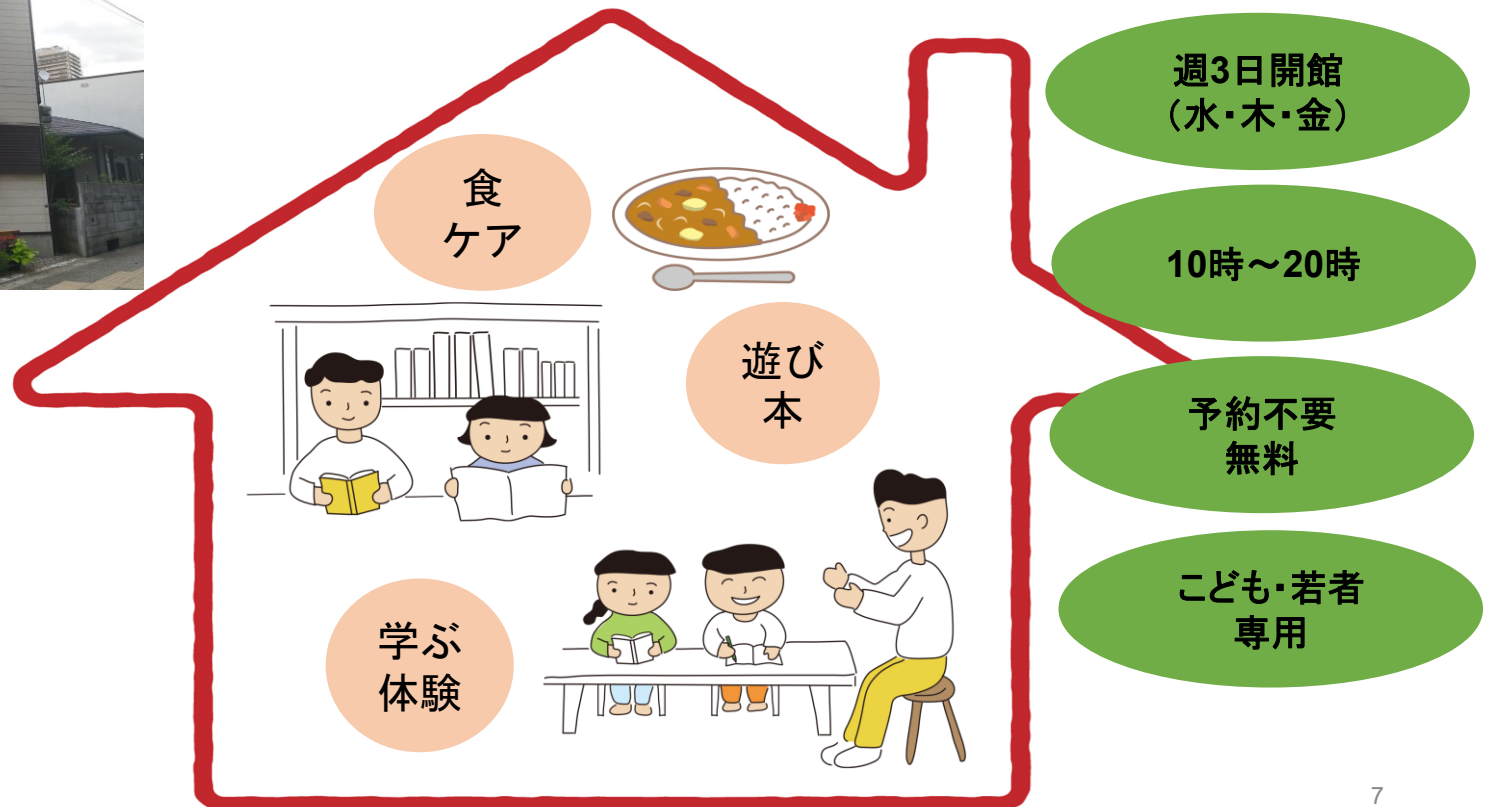
こども達の社会的孤立を防ぎ 本人が過ごし方を見つける場の提供

さまざまな年代が同じ場で過ごすインクルーシブな場を開くことで、まずは家から出る一歩から始め、少しずつ場に参加したり、本人がその場での過ごし方を見つけたり、役割を見つけることをめざします。

居場所事業 (主に10代のこども対象)

「教育」×「福祉」の融合

「学び・体験」「遊び」「食」「ケア」
小規模多機能ユースセンター



居場所事業 (主に10代のこども対象)

くるくるスペース

<0歳から10代のインクルスペース「こども・若者図書館」プロジェクト>

時間：10時～15時

主な利用者

学校に行っていない小学生・中学生



自分で時間の使い方を決める
「暇」を経験する
こども達の選択と決定を大事にしたい時間

- ・料理、掃除、植木の手入れ、裁縫など、日常的な作業を手伝い、担うこともある。
- ・月1回の親子のための「ルーチェひろば」の開催

放課後スペース

<「bloomプロジェクト」こども達が生きる力が育つ場所を作ろう！>

時間：15時～20時

主な利用者：放課後に立ち寄る中学生



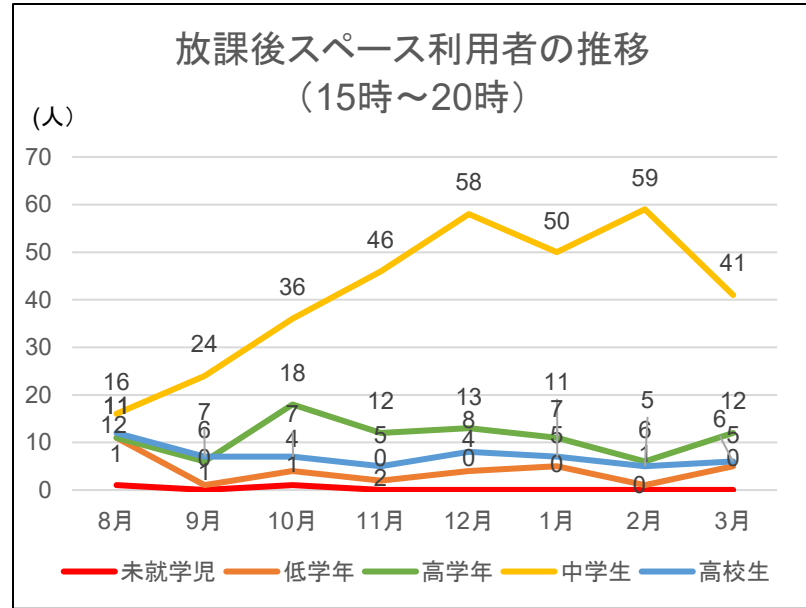
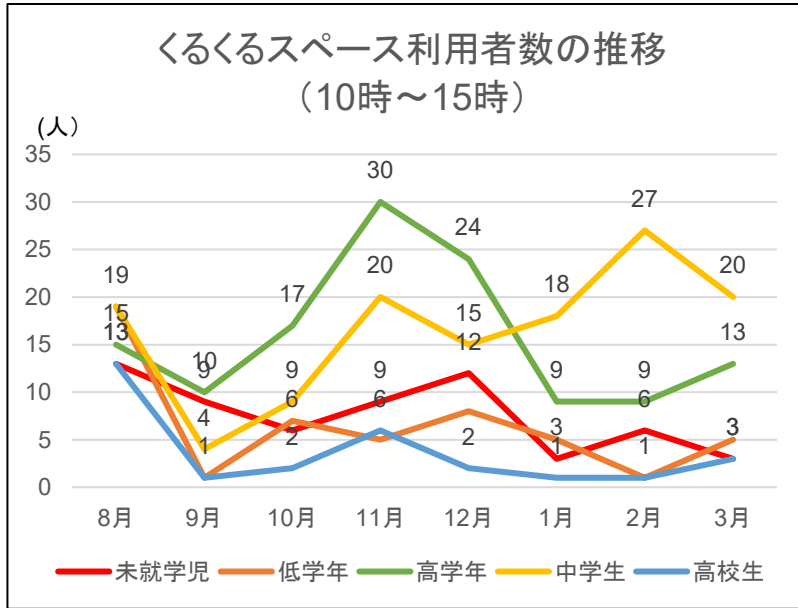
学校以外の友達と遊び・勉強する
おしゃべりしながら晩御飯を食べる
疑似家族的なかかわり

- ・「自習室」を利用して学習する中学生の姿。
- ・ギターやカードゲームなどのリラックスした時間
- ・10代応援食堂（無料の夕飯）

居場所事業 (主に10代の子ども対象)

成果

多くの子ども達に認知され利用者数が伸びている



(人)

	未就学児	低学年	高学年	中学生	高校生
合計	61	51	127	132	29

(人)

	未就学児	低学年	高学年	中学生	高校生
合計	2	33	89	330	57

来館している子どもの所属している学校	(校)
小学校	25
中学校	12
高等学校	12

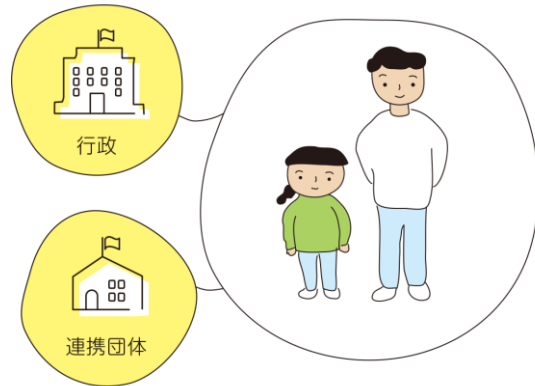
3月20日までの集計結果です。

居場所事業 (主に10代のこども対象)

成果

こども達の変化

ライブラリーで「友達」ができた子がリピーターになり、どんどん仲良くなる様子が見られました。遊び・学びのバリエーションが増え、一緒に過ごす時間が長くなってきた。家庭でも親とのコミュニケーションの時間が増えました。



支援団体・学校・行政・児相との連携

こども達の第三の居場所として他機関からの相談を受ける件数が増えてきました。また、実際にライブラリーに来館する中学生もいて定着している子もいる。他機関に、中学生以上の居場所として認知されつつあります。

アウトリーチ活動との連動

当団体の「訪問型こども・家事支援」や「食料提供」などでつながっている家庭のこども達に利用してもらっています。イベント参加や学習支援、10代応援食堂(夕飯)の利用につながっています。

居場所事業 (主に10代のこども対象)

課題

多様なこども達を受け入れる体制づくり

こども達のおかれている背景はさまざまで、また本人の特性や性格や好みなども多様です。現状ではすべてのこどものニーズに応えられず、2回目の来館につながらないこども達もいます。

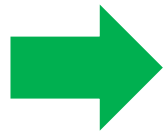
高校生へのリーチに課題

実際にまだ高校への案内が十分にできておらず、実際に来館する高校生の人数は少ないです。今後、魅力ある居場所運営と認知の方法を考える必要があります。

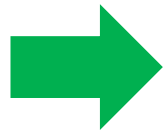
こども主体の「学び」「体験」の機会の創出

こども達が来館する中でこども達のニーズをつかみきれず、こども達が主体となれる「学び」や「体験」の機会を作れませんでした。

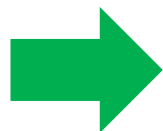
展望



こども達との対話の機会を増やす



多様なプログラム・企画の実施



関わる大人の多様性

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

<こどもの本でつながる「こども図書館」プロジェクト>

事業背景

- ①西宮市に10代のこどもの居場所がない。こどもに関わることに、こどもの声が聞かれていません。
- ②ひとり親家庭のこども達が本や文化に触れる機会が限られている状況があります。

目的

- ①「子どもの権利」などこども達の尊厳を守る知識を団体スタッフだけでなく、地域の大人と共有していきます。
- ②こどもの居場所に必要な資源についてこどもたちの意見を聞く機会を持ちます。
- ③ひとり親家庭のこども達が本に触れ、文化体験ができる機会を作ります。

事業内容

- ①大人対象のブックトークや講演会の開催
- ②こども図書館の環境づくり（100冊選書）
- ③ひとり親家庭のこども達が本や文化に触れる機会を提供する。移動図書館や「絵」「音楽」「料理」「科学」「ブックトーク」をテーマにワークショップを開催

対象	大人			こども		大人	こども				
	4	5	6	7	8		9	10	11	12	1
内容	ブックトーク			移動図書館		講演	絵本×ワークショップ				
延参加者数	41人			14人		会場 50人 オンライン 260人	38人				

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

成果

「こどもにとって安心な本」の設置が可能に

ブックトークでは、こどもが尊重される社会の実現のために理念を共有する大人を増やすために「こどもにとっていい本」について考えました。団体の理念を共有することに近づいていきました。

「こどもを尊重する社会の実現」という理念でつながる支援者

居場所という地域を限定した活動に対して、遠方からも支援者が集まりました。「こどもを尊重する社会の実現」を理念に掲げた団体の活動がどの地域でも実現されるよう、ロールモデルになることを期待されていると感じました。

本に触れる機会を重ねることで深まるこども達との信頼関係

連続して参加するこども達が多く、全く声がでなかった子がスタッフと楽しそうに談笑する姿が見られました。食料提供や普段のライブラリーにも来てくれて、学校のことや関心のあることを話してくれるようになりました。

異年齢交流と参加対象を限定する中での安心感

ワークショップには、乳幼児から中学生までの参加がありました。絵や楽器づくりなど、テーマに応じて得意な子が苦手な子に教えたり、食事や自由時間に年齢に関係なく遊ぶ姿がありました。ライブラリーとは違い、「ひとり親家庭のこども」と参加者を限定する中で得られる安心感があり「ひとり親のことをここでなら話せる」と話してくれる子もいました。

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

課題

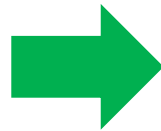
ボランティア、支援者との課題の共有

こども達と直接の接触を持ってもらえないため、支援者にこども達の様子をどのように伝えればいいのか、また、こども達のおかれている課題を共有してもらうには、何をどれくらいの頻度で伝えればいいのか手探りの状況です。

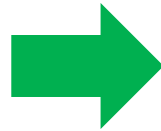
障がいのあるお子さんも参加できる体験の場作り

つながりのあるひとり親家庭には障がいのあるお子さんのいる割合も高く、文化体験の機会はより限られていると思いますが、その子ども達が安心して参加できるような体制が必要と感じました。

展望



こども達の本との関わりや変化などを定期的に発信する



ひとり親家庭、障がいなど多様な背景を理解したボランティアの育成

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

<こども達を孤立にさせないつながる伴走支援>

事業背景

ケア的な役割を担うこども達の存在
こどもらしい体験や学習補助の不足
発達障がいなどにより、学習についていくのが難しい子の存在
親のメンタルヘルスの問題で虐待リスクの高い子の存在

目的

主にひとり親家庭の小学生～中学生が学校や家庭、地域から孤立することを防止し、ヤングケアラーの防止、不適切な養育の防止を目的に実施しました。

事業内容

- ①つながるきっかけづくり「食料提供」
- ②子ども達の生活改善のための「訪問型家事・育児支援」
- ③自分のペースで勉強できる場所の提供と学習支援
(ライブラリーでの学習支援)
- ④体験を重視した野外・文化体験プログラムを提供

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

1. つながるきっかけづくり・食料支援

野菜や卵などの生成食品・缶詰やインスタント食品・雑貨類などを家族の人数分を無料で配布しました。取りに来たときにスタッフは声をかけ、生活の変化などをお聞きしました。交流スペースを設け、お茶やお菓子を食べながら親子ともに他の家族と交流ができるようにしました。臨床心理士が親同士の話を促すようにしました。

- ◆時期・回数：月1回・年間12回
- ◆場所：地域共生館ふれぼの（西宮市中前田町）
- ◆対象層：困窮状態にある家庭（おこさんは18歳以下）
- ◆提供家庭数：毎月約35家庭。のべ354家庭（実数72家庭）



成果

毎月1回、同じ人と顔を合わせることで家庭の変化にすぐに気づき「ケア」的な声かけができる。病気やケガによって生活に困難があった場合はすぐに家事支援に訪問することができました。交流スペースでは、同じ悩みを持つ親同士が話すことで、ピアサポート的な時間が生まれました。

課題

遠方から炎天下の中、長時間自転車をこいで取りに来られる方が大勢いました。体調が悪くて取りに来られない方もいました。宅配で届けるなどしましたが、身近で受け取れるしくみの必要性を感じました。

展望

食料支援を行う支援団体が増えるよう、市内の個人や支援者に働きかけていきたいと思っています。また「ドコデモこども食堂」を活用し、身近で支援者と出会う仕組みを広げていきます。

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

2.こども達の生活改善のための「訪問型家事・育児支援」

家事や子育てに困難を抱える家庭をスタッフ2名が訪問し家事・子育てを一緒に行いました。

①家事およびこどものケア（ペアで訪問）（1回2時間/想定訪問回数12回）

②絵本の読み聞かせ（ペアで訪問）

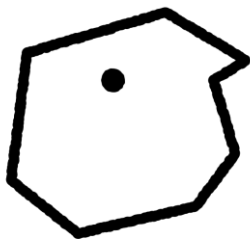
③相談のみ（主に1人で訪問）

◆時期・回数：2023年5月開始2024年3月終了

訪問家庭数 22家庭 訪問数（1回～21回）スタッフの訪問のべ182人

◆場所：各家庭

◆対象層・人数：特定妊婦・20歳以下のこどものいるひとり親家庭・困窮家庭（親の心身の不調や子どもの特性により家事や子育てに困難を抱えている家庭）



たねとしずく

こどもサポートステーション

成果

スタッフがペアで訪問することで、こどもと親の話をそれぞれしっかり聞くことができました。こどもとの関わりに悩む親が多かったので、両者の間に入ることで、親子の関係がスムーズになることもありました。

課題

支援期間終了後、親の話をじっくり聞く時間がとりにくくなります。そのことで不安を感じる方も中にはおられました。

展望

こども達とはライブラリーやイベントなどで会えるよう働きかけていきます。小さなお子さんのいるひとり親家庭が集まれる場を作っていきます。

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

訪問を受けた家庭の状況(22家庭) (家事支援以外の相談支援や絵本訪問も含む)

<訪問支援を知った経路>

たねと ずく食料 提供等	支援機 関から の紹介	SNSや ネット ニュース	口コミ
11家庭	5家庭	4家庭	2家庭

訪問支援を知ったきっかけでもっとも多かったのは、当団体の食料提供での個別の情報提供でした。毎月顔を合わせ、困りごとをお聞きしている中で家事支援やこどもの支援の必要性を感じ、ご提案をさせていただきました。そのほか、児童相談所や支援団体からご相談を受けるケースも増えてきました。課題が複雑に絡み合ったご家庭もあり、連携して支援にあたりました。

<家庭の状況>

親の病気 怪我・鬱 など	乳幼児・ 双子育児	父子家 庭・その 他	子に障 がい・発 達障 がい がある
9家庭	6家庭	4家庭	3家庭

共通していたのはどの家庭も何らかの理由で子育てに困難がある状態でした。親の多くがSOSを出すことが得意なわけではなく、こどもの生活を整えるために支援を求めてきていると感じました。また、一時的なしんどさではなく、障がいや病気など長期的に支援が必要な家庭が多くありました。

<親の変化> (アンケートより)

スタッフと話
すのが楽し
かった

人に頼っても
いいと思える
ようになった

困ったときにはた
ねとずくに連絡
しようと思った

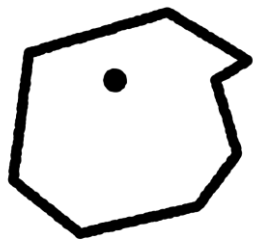
共通していたのはどの家庭も何らかの理由で子育てに困難がある状態でした。親の多くがSOSを出すことが得意なわけではなく、こどもの生活を整えるために支援を求めてきていると感じました。また、一時的なしんどさではなく、障がいや病気など長期的に支援が必要な家庭が多くありました。

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

3. こども達が安心して遊べる・学習できる居場所の提供

当団体の「たねとしずくライブラリー」を利用して、こども達が安心して遊べ、勉強できる時間を提供しました。主に学生スタッフがこども達との時間を過ごしました。年齢に応じて、遊びの種類や学習補助など、個々に合わせた支援を行いました。1月以降は受験生を主な対象として自習室を開館しました。昼間にはみそ汁などスープを用意し、利用者が一緒にテーブルを囲んで食べることもありました。

- ◆時期・回数 : 夏休み2日間・平日1日・日曜日 (1月以降)
38日間・のべ106名参加
- ◆場所 : たねとしずくライブラリー (西宮市六湛寺町)
- ◆対象層・人数 : 学習の補助や家庭や学校以外の居場所が必要な困窮世帯の小学生・中学生・高校生



たねとしずく

こどもサポートステーション

成果

「ライブラリー」があることで親はこどもを安心して送り出すことができました。こどもは親と離れて、大人に話を聞いてもらう時間が取れました。学習の機会を作ることができ、学びへの意欲が高まる子が出てきました。

課題

学校の標準的な学びのペースに合わない子達に対して、継続的に個別的なかかわりが必要だと感じました。塾ではないので、どのように関わっていくのかは課題です。

展望

ライブラリーの時間を利用して「ICT教材」を使った学習支援のプログラムを進めたいと考えています。

ひとり親家庭支援事業 (0歳～18歳までのこども支援)

4. 野外・文化体験プログラムの提供

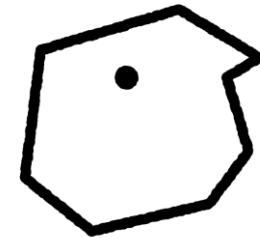
ひとり親家庭のこどもたちが、普段の生活の中で経験しにくい活動ができるよう企画しました。また、こどもたち同士の関わりも自然と生まれやすいようしました。親子で参加、または親が当団体を信頼してこどもを送り出すことにより、安心してプログラムに参加できる環境になりました。ボランティア、スタッフなどいろいろな人との関わりの機会を準備し、人と関わる心地よさを経験できた時間にしました。

対象層：ひとり親家庭の幼児～中学生

タイルアートワークショップ（たねとしづくライブラリー） 8人参加
タイルを使って、鍋敷き、コースター、飾りなどを作るワークショップ。夏休みの宿題提出にもなる。ワークショップのあとは、昼食を食べたり、本をみて過ごした。

甲山へ秋の遠足（甲山森林公園） こども12人、保護者5人
昼食づくり（ホットドッグ）・秋の自然の中、散策（自然物探し）・広場での遊び（大縄遊び、プロペラとばし、ボール遊びなど）

ボーリング（西宮トマトボール） こども13人、保護者3人
チームに分かれて、ボーリングを2ゲーム楽しむ



たねとしづく

こどもサポートステーション

成果

普段できないような体験をこども達が経験することができ、楽しく過ごすことができました。回数を重ねるごとにこども達も仲良くなり、私たちと一緒にいてリラックスできるようになってきました。

課題

年齢や発達状況など多様なこども達に対して、すべての子が一度に満足できるプログラムは作ることが難しいと感じました。

展望

年齢があがるとライブラリーの通常の活動に参加できるようになるので、ひとり親支援では、乳幼児や小学生など低学年向けのプログラムを準備していきたいです。

支援者支援事業

(主にひとり親支援に携わる支援者対象)

<ひとり親家庭支援支援者研修>

事業背景

こどもの声を聴く技術を持たず困っている支援者の存在

支援の現場で「こどもにどう話しかけていいのかわからない」「表面的な会話しかできない」ということでこどもの困りごとをキャッチできずにいる支援者がいます。特にひとり親支援のように背景が多様で複雑な状況の受益者に対して、どのように接していいのかわからない支援者が多いことがこれまでのヒヤリングで明らかになりました。

ケアをする人がケアされずにしんどさを抱えている状況

支援者が話を聞いてもらう機会がなく、自分だけで悩みを抱えている方が多く、バーンアウトすることも多々あります。支援者の困りごとをきく体制づくりが支援団体の中に必要だとはわかっているけれど、どのように行えばいいのかわからない団体が多く存在しています。

目的

当事者の声を聴く方法を学び、実践できるようになる

「声」を聴けるようになることで、ひとり親家庭の親、こどもの家庭状況や現状を把握し、団体内部で情報を共有、一人ひとりに寄り添った相談支援を行えるようになります。また、この事業によって支援者同士・支援団体間でつながりができ、連携を深めることを目的にしました。

事業内容

NPO法人ムラのミライと協働し、人の話を聞く技術「メタファシリテーション®」にひとり親支援従事者向けのテキストを作成し講座を行う。対面講座とオンライン講座の2講座を実施。①対面講座5時間×2日間 ②オンライン講座2.5時間×4日間。希望者にはフォローアップ研修を行いました。

支援者支援事業 (主にひとり親支援に携わる支援者対象)

ひとり親家庭支援 支援者研修

ムラのミライに学ぶ「メタファシリテーション®講座」

STEP 1 話を聞く技術基礎

ひとり親家庭を支援する際に役に立つコミュニケーションの技法「メタファシリテーション®」の基礎をオンラインで2回に分けて学びます。

メタファシリテーション®講座ステップ1 (計5時間)
第1回目: 12月10日 (日) 10:00-12:30
第2回目: 12月17日 (日) 10:00-12:30
オンライン開催



なんで時間どおりに来なかったの?
「遅い」といわれる

まだできていないことに
焦りを感じてしまう

だって出来るのが遅くなって
「なぜ?」と聞かれると、つい「OOOOO」してしまう

メタファシリテーション®とは

- 相手の話を聞き、相手自らが課題を分析することを促す手法
- ✕ こちらの言わせたいことを言わせる手法

相手の自己肯定感への配慮を
おろそかにしない

STEP 2 話を聞く実践練習

STEP 1 で学んだことを復習し、参加者同士で話を聞き合う練習をします。相手の自己肯定感に配慮したコミュニケーションを身につけます。

メタファシリテーション®講座ステップ2 (計5時間)
第3回目: 1月28日 (日) 10:00-12:30
第4回目: 2月4日 (日) 10:00-12:30
オンライン開催

< 講座申込 >

QRコードを読み取り、必要事項をご記入の上お申し込みください。応募多数の場合は参加状況を考慮の上、抽選させていただきます。

- ・参加費無料
- ・団体でお申込みください。
- ・締め切り10月31日

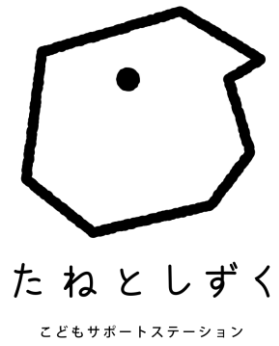


アーカイブ動画あり

子ども様まじいふたごのママプロデュース教材
「子どもの話をもっと聴きたい!」

その「なん?」を「いつ?」に変えてみる

1回以上リアルタイムでの講座参加した方の欠席の補講として、アーカイブをご覧くださいませ。
また、メタファシリテーション®を手軽に学べる動画の教材動画があります。

オンライン講座 5団体参加
対面講座 2団体参加
(関東の団体1名・たねとしずくスタッフ10名)

主催: NPO法人こどもサポートステーション・たねとしずく
講師: 認定NPO法人ムラのミライ

本事業はしんぐるまざあず・ふぉーむの「たいじょうふだよ!基金」の助成を受けて実施しております。

支援者支援事業

(主にひとり親支援に携わる支援者対象)

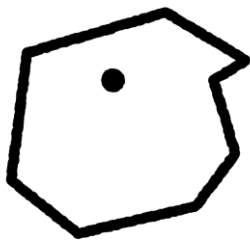
受講者の声

身につくまでは程遠いですが、意識して会話する習慣をつけようと思いました。ワークも多く実践的で、難しくもやりがいのある講座でした。

園児との何気ない会話でしたが、お散歩の間いろんなことを聞けて、園児も嬉しそうに答えてくれました。

実践してみると、効果絶大で、今まであまり話せなかった子とすごく喋るようになったり、弟とうまく会話できるようになった。

実生活でのコミュニケーションでうまく行かなかった時の原因などを知ることができた。



たねとしずく

こどもサポートステーション

成果と課題

支援の現場で思い込みや強引な話し方をするのではなく、相手の声を聴く技術を知ってもらうことができました。ひとり親支援の現場での実例や課題を共有できる講座であればよりよかったです。

展望

ひとり親支援に関わる活動団体がつながり一緒に学ぶことで同じ社会課題解決のために協力しあえる関係が作っていけるとと思います。今後も研修や情報交換の場を持っていきます。

支援者支援事業 (団体内部支援者向け)

<運営基盤整備と支援者の研修とケア体制の整備>

たねとしずく
こどもたちへの9つの約束

スタッフやボランティアなどたねとしずくの活動に関わる大人は次の9つのことを約束します。
たねとしずくの活動にこども達が安心して参加できるようにするための大切な約束です。

- 1 スタッフは、ひどい言葉で
けがしたり、
どなったりしません。
- 2 スタッフは、誰かを特別扱い
したり、差別をしません。
むざむざをしません。
- 3 スタッフは、
暴力をしません。
- 4 スタッフは、勝手に体をさわったり、
性的なことをしたりしません。
お互いのパーソナルスペース
(安心できる距離や空間)を守ります。
- 5 スタッフは、こどもと
二人きりで長い時間を
過ごしません。
- 6 スタッフは、自分で
できることは必要以上に
手伝いません。
- 7 スタッフは、こども達の顔や体の
写真や動画を勝手に撮ったり、
使ったりしません。
- 8 スタッフは、
活動以外のことで
個人的に連絡しません。
- 9 スタッフは、お金のやりとりを
しません。物をもらったり
あげたりしません。

こども達にお願い

- ライブラリーで、人物を入れて写真を撮りたいときはスタッフに相談してください。
人物が写っている写真や動画は友達などに見せたり、SNS等で拡散しないでください。
- スタッフとお金のやりとりをしません。物をもらったりあげたりしません。
- スタッフと連絡をとるときは、公式LINE等の決められた方法を使ってください。
- スタッフが9つの約束を守らないときには、スタッフの箱かに書いてください。
または、ライブラリーに設置した「相談ボックス」に手紙を入れるか
「9つの約束窓口」にメールをください。

9つの約束窓口
書いたことがあれば、
次のフォームから
郵送してください。

保護者の
みなさまへ
たねとしずくの活動やご家庭
でのお子さんの関係づくり
でお困りのことがございましたら
こちらご相談ください。

発行：NPO法人こどもサポートステーション・たねとしずく 連絡先：070-3998-0380（代表） 2024.3

困難な状況にある家庭や子ども・若者たちをケアするスタッフが心身に安定し支援に当たれるよう研修やグループスーパーバイズやカウンセリングなどを受ける機会を設けました。

- ・ こどもへの暴力に関する知識を学ぶ研修（2回）
- ・ こどものセーフガーディングについて学ぶ研修（6回）
- ・ 臨床心理士によるグループスーパーバイズ（毎月1回）
- ・ 個別カウンセリング（のべ3回）
- ・ 他団体への視察 多数

こども達を傷つけることがなく、スタッフ自身を守ることを目的に、「こどもたちへの9つの約束」を作成しました。

次年度の予定

- 10代の若者を中心にしたこどものユースセンター事業

- ひとり親家庭のための居場所事業

居場所支援

ライブラリー

こども若者を孤立させない
つながる伴走支援

支援者支援

支援者を増やしケアする

- SOSを受け止められる社会へ、こども支援者育成事業

- こどもへの暴力に関する知識を学ぶ研修事業

- 内部支援者研修

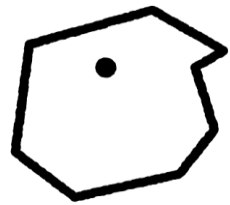
訪問支援

困窮家庭の生活支援

- ひとり親/困窮世帯の訪問型生活支援（こども支援・家事支援）

- 絵本の読み聞かせ訪問

ありがとうございました。



たねとしずく

こどもサポートステーション